

日本語・日本文化研修留学生プログラム

- 東京外国語大学における現状と展望 -

鈴木 智美

東京外国語大学留学生日本語教育センター

tmsuzuki@tufs.ac.jp

1. 東京外国語大学における日研究生プログラム

「日本語・日本文化研修留学生」(以下「日研究生」)とは、日本語力の向上と、日本事情・日本文化に対する理解を深めることを目的とし、文部科学省の奨学金を受けて1年間日本で勉学・研修を行う留学生のことである。本国の大学で日本語・日本文化を専攻している学生が対象となる。

東京外国語大学では、1980年(昭和55年)に日本で最初にこの日研究生を受け入れたという歴史を持つ。以後、その教育・研修は、外国語学部附属日本語学校、外国語学部日本語学科、外国語学部日本課程をそれぞれ中心として続けられ、2000年(平成12年)10月に担当教員を留学生日本語教育センターにおき、日研究生のための独立した新しいプログラムがスタートした。2005年(平成17年)6月からは、留学生日本語教育センターに設置された「日研究生プログラム運営委員会」が、プログラムの運営を担当している。

東京外国語大学における大使館推薦¹の日研究生の受入れ定員は12名である。大学間交流協定に基づく大学推薦²の日研究生の受入れ人数は、この大使館推薦の受入れ人数を超えないものと定められており、本学では、毎年合わせて計20名ほどの日研究生を受け入れている。

2. 本学における日研究生プログラムの教育・研修内容

2.1 日本語ー「全学日本語プログラム」

日研究生の教育・研修の目標の一つである日本語力の向上に関しては、留学生日本語教育センターにおける「全学日本語プログラム」により、充実した教育・研修が可能となっている。

全学日本語プログラムには、100(入門)レベルから800(超級)レベルまでの8段階のレベル³が設定されており、計約40に及ぶ日本語科目が開講されている。1週間の延べ開講コマ数は、計75に上る。日研究生のほか、大学間交流協定に基づく短期留学生や、その他の研究生も、日本語科目については全てこの全学日本語プログラムを受講する。1週間に10回の授業が行われる集中コースも設定されており、国費研究留学生等の予備教育にも対応可能なものとなっている。

日研究生も、この全学日本語プログラムのプレイスメントテストを受け、各々のレベルに応じて日本語科目を受講する。「総合日本語」の他に、「語彙・文法、読解、聴解、文章表現、口頭表現、時事日本語」などの技能別日本語、また超級レベルでは「ドラマ・ドキュメンタリー、文学

日本語、ビジネス日本語」などのテーマ別日本語、また、いくつかのレベルにまたがる「漢字」「発音」などの科目も開講されている。

2.2 専門科目—日研究生専門科目

日本事情・日本文化等については、留学生日本語教育センターで日研究生を対象とした専門科目を開講している。一部は外国語学部と共通開講である。また、外国語学部で開講されている通常の講義科目も、指導教員の指導のもとに担当教員の許可を得て、適宜受講することができる。

以下、表1は2006年度(2006年10月～2007年7月)開講の日研究生専門科目である。〔 〕内の数字は、受講対象者の日本語レベルの目安を、「全学日本語プログラム」(2.1参照)のレベルコードで示している。*印はリレー講義である。リレー講義および「日本語・日本文化研究」は全員受講としている。「日本語・日本文化研究」では、修了レポート執筆に向けた準備を行う。

表1 2006年度 留学生日本語教育センターにて開講の日研究生専門科目

秋学期(2006年10月～2007年2月)		春学期(2007年4月～2007年7月)	
科目名	講義題目	科目名	講義題目
〔400-500〕 日本の歴史と社会 日本の社会と文化	日本事情 現代社会文化論	〔400-500〕 日本の歴史と社会 日本の社会と文化	日本事情 現代社会文化論
〔600以上〕 日本の言語と文化 日本の言語と社会 日本社会文化特論 現代文化特論	日本語文法概論 現代日本語意味論入門 日本文化概論 大衆文化論	〔600以上〕 日本の言語と文化 日本の言語と社会 日本社会文化特論 現代文化特論	日本語文法概論 日本語教育入門 比較教育学概論 比較文化論*
日本語・ 日本文化特論	日本語と日本語教育研究 の諸相*	日本語・ 日本文化特論	(今学期開講せず)
〔全員受講〕 日本語・ 日本文化研究	日本語・ 日本文化研究	〔全員受講〕 日本語・ 日本文化研究	日本語・ 日本文化研究

2.3 受講科目数の目安

日本語レベルが中級～中上級の場合は、「全学日本語プログラム」の日本語科目を重点的に履修し、日本語力を高めることをまず目標とする。日本語レベルが上級以上の場合には、日本語科目と日研究生専門科目とをバランスよく受講する。日本語レベルが超級以上の場合には、日研究生専門科目だけでなく、外国語学部の一般科目の受講も積極的に行うよう指導する。全ての科目を合わせて、週あたり10～12科目ほどが平均受講科目数となる。

2.4 修了レポートおよびエッセイ

東京外国語大学では、日研究生は外国語学部の「特別聴講学生」に準じる形で、その教育・研修を行うこととして受け入れている。研修修了要件は、「研修報告書」を提出することとなる。

日研究生の研修報告書は、「修了レポート」と「修了エッセイ」に分かれる。「修了レポート」は、日本語・日本文化に関して、各自興味のあるテーマを設定し、1年間の研究成果を約 8,000～12,000 字（A4 版 6～8 枚）にまとめるものである。レポートの内容に基づき研究発表も行う。

「修了エッセイ」は、研修を終えて得たもの、研修期間に学んだことを 1,200～2,000 字程度（A4 版 1～2 枚）にまとめるものである。エッセイの内容に基づき、スピーチも行う。

レポート執筆対象者は、原則として秋学期（入学時）の日本語レベルが 500（中上級）以上の者である。秋学期から「日本語・日本文化研究Ⅰ」の授業において準備を進め、春学期には、「日本語・日本文化研究Ⅱ」の授業とともに、留学生日本語教育センターに関わる複数の教員による指導体制をとり、個人指導も行う。レポートおよびエッセイは、いずれも『日本語・日本文化研修留学生 修了レポート集』として 1 冊にまとめ、各関係先に配布している。

2.5 その他

2005 年度までは、校外実地研修（見学・実習等）をプログラム独自に設定することは特にしていなかったが、2006 度には「江戸切り子」の体験授業を校外実地研修として行った。この他、全学の留学生向けに実施される見学旅行等には、日研究生も随時参加することができる。

3. 本学における日研究生プログラムの今後の展望および課題

3.1 多言語・多文化環境における学び

東京外国語大学では、世界のほぼ全ての地域にわたる 26 の専攻語が設けられ、それらの地域の言語・文化・社会に関わる教育・研究が行われている。また、2006 年 10 月 1 日現在で、世界 30 か国 1 地域にわたる計 62 の大学との交流協定が結ばれ、留学生の交換も行われている。

本学におけるこのような多言語・多文化環境は、日研究生プログラムにとって 2 つの意味を持つ。一つは、日研究生が、自国や出身地域の言語・文化が日本の大学においてどのように教育されているのかを知り、異なる視点からそれをとらえ直す機会を得られることである。また、もう一つは、日研究生が他の多くの国・地域からの留学生とともに日本語を学び、日本語・日本文化に関わる専門領域の教育を受け、さらに日本語を媒介言語として互いに交流を深めるということである。地球社会化時代とも呼ばれる現代の社会において、このように、いわば世界へと開かれた環境の中で日研究生として学ぶことができる点は、東京外国語大学で研修を行う日研究生にとって、強く印象に残る点の一つとなっているようである。

3.2 日本語と日本語教育の充実

また、東京外国語大学における日研究生プログラムのもう一つの特徴としては、日本語および日本語教育の面からの充実したプログラムの提供を目指していることが挙げられる。

まず、留学生日本語教育センターにおける全学日本語プログラムは、日本語の運用力を高めることだけでなく、日本語教育に興味を持つ日研究生にとっては、これらの日本語科目を受講することそのものが、日本語教授法の勉強につながっていくという利点も持つ。日研究生の中には、将来母国で日本語教育に携わることになる者もあり、全学日本語プログラムを受講することは、彼らにとって、日本語教授法の生きたモデルに日々触れることともなっている。

また、高い日本語力を持つ日研究生には、日本語の文法、意味、音声、文字等、日本語学の各分野において、日本語を専門的・客観的に学ぶことにも意義がある。2006年度秋学期からは、日研究生専門科目の一つとして、留学生日本語教育センターにおける日本語・日本語教育に関わる各教員により、リレー講義「日本語と日本語教育研究の諸相」も開講することにした。

日研究生には、本国の大学を修了した後、再び来日し、大学院レベルの勉学・研究を進めていくことを希望する者も多い。本学においては上記の2点の充実をさらに進めながら、大学院レベルでの教育も継続して視野に入れていくことが、今後の課題になると思われる。

注

- 1) 日本政府在外公館（大使館・総領事館）が現地で第一次選考を行い、合格者を文部科学省に推薦し、文部科学省が最終選考を行うもの。
- 2) 大学間交流協定に基づき相手大学から推薦された者について、各大学で審査の上、文部科学大臣に推薦し、選考が行われるもの。
- 3) 100(入門)、200(初級)、300(初中級)、400(中級)、500(中上級)、600(上級1)、700(上級2)、800(超級)の各レベルである。日研究生の日本語レベルは概ね500以上が多い。

参考文献・資料

- 鈴木智美(2007)「日本語・日本文化研修留学生プログラム 東京外国語大学における日研究生プログラムの現状と展望」『留学生日本語教育センター論集』第33号 東京外国語大学留学生日本語教育センター pp.149-167
- 東京外国語大学(1999)『東京外国語大学史・独立百周年(建学百二十六年)記念』
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター(2007)『全学日本語プログラム 3年間の報告書』
- 東京外国語大学「協定校一覧」(<http://www.tufts.ac.jp/intlaffairs/partners.html>)
- 文部科学省「国費外国人留学生制度について」(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/06032818.htm)